キューバ貿易・投資機会セミナー　挨拶要旨

日本・キューバ友好議員連盟　会長　古屋圭司

本日のキューバ貿易・投資機会セミナーの開催をお喜び申し上げます。

ジェトロ及びキューバ大使館のご協力に対し、日本・キューバ友好議員連盟会長としても敬意を表します。

私がキューバに関心を持ったのはまだ当選間もない３０年前のことです。

東西冷戦が終焉して純粋な社会主義国はキューバと北朝鮮だけという環境の中で、北朝鮮の現状は、核・ミサイル問題とともに拉致問題と国際社会からも厳しい目が向けられていますが、一方キューバはあえて言うならば健全な社会主義革命をつづけていることに強い関心をもち、当選一回生の時に初めてキューバを訪問して以来、キューバのファンになり統治機構を超越して議員連盟を立ち上げ、三塚博先生がご引退のあとは、私が会長を続けています。

両国は歴史的に友好的な関係を維持し続けていますが、今回の貿易・経済という視点にたつと、いくつかの問題があるのも現実です。

ここ１０数年来の議員連盟の取り組みの中心はいかに短期・中長期貿易債務問題をいかに解決するかということでした。

中長期債務のリスケが２０１６年１２月に成立しました。
年末の慌ただしい中、海外出張から帰国した足で、キューバ大使館に赴きカブリシャス副議長や大使と対応に当たったことを思い出します。

しかしその後は、米国の政権交代や大型ハリケーンの襲来などで、キューバ国内は厳しい環境にあることも承知しています。

その影響もあって、現在再び延滞債務が発生していますが、健全な貿易を進めていくためにもキューバ側のご協力をお願いします。

５年ほど前に貿易投資法が成立して投資環境の改善が進められることを望んでいますが、例えば、現地人材は全て人材派遣公社が人選して企業に派遣する制度の改善や、もっぱらビジネスに使用される乗用車には高額関税を免除してほしい等の要望を出していました。

昨年１２月に日本人キューバ移住１２０周年の機会に、私が団長として民間団体の皆さんとともにハバナを訪問しました。
その際に開催された投資セミナーやマルミエルカ貿易大臣との懇談でも、「日本企業は相手国の事情を十分に理解し、WIN-WIN の関係を作るという企業文化があり、例えば、人材の選定は日本企業側が行いその人材を派遣公社から派遣してもらうなどの工夫は可能ではないか。」等々意見交換させていただきました。

このような積極的な働きかけが功を奏し、今般日本側の要望が通りました。

あえて申し上げさせていただくと、中国が現在世界各国に行っている支援は、基本的に相手国側の発展や事情よりも、中国側の利益のために投資をしているというものとは対極にあるのです。

昨年４月にラウル・カストロからディアスカネル国家評議会議長に就任し世代交代が実現しました。
新憲法が公布され大統領制に移行するということも承知しています。
また、これまで認められてこなかった個人財産保有や外国投資の促進と保護も憲法に明記されたことに注目しています。

日本とキューバが長年培ってきた友好・信頼関係をさらに加速させていくためにも経済投資は極めて重要です。

今年は外交関係樹立９０周年を迎えます。
本日のセミナーを通じて、両国の経済・文化交流のさらなる発展を祈念して、日本キューバ友好議員連盟会長としての挨拶と致します。